

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(川本北小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

| | 国語 | 算数・数学 |
|------|------|-------|
| 川本北小 | 上回った | 上回った |
| 埼玉県 | 68 | 62 |
| 全国 | 67.2 | 62.5 |

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

| | 質問事項 | 川本北小 | 埼玉県 | 全国 |
|------------|--|------|------|------|
| 生活習慣 | 朝食を毎日食べている | 97 | 94.4 | 93.9 |
| | 毎日、同じくらいの時刻に寝ている | 84.8 | 83.1 | 81.0 |
| | 毎日、同じくらいの時刻に起きている | 95.5 | 91.7 | 90.5 |
| | 新聞を読んでいる(週に1回程度以上) | 9.1 | 12.4 | 12.6 |
| 学習習慣 | 家で、自分で計画を立てて勉強をしている | 77.2 | 73.4 | 70.7 |
| | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる | 81.9 | 80.9 | 77.4 |
| | 昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた | 81.8 | 83.0 | 78.8 |
| | 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む) | 66.7 | 59 | 57 |
| 教科への関心 | 国語の勉強は好きだ | 77.3 | 61.6 | 61.5 |
| | 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う | 97 | 94.0 | 92.8 |
| | 算数の勉強は好きだ | 63.6 | 61.2 | 61.4 |
| | 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う | 92.4 | 94.1 | 93.3 |
| | 英語の勉強は好きだ | 68.2 | 69.6 | 69.3 |
| | 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う | 45.5 | 54.1 | 52.5 |
| 主体的・対話的な学び | 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた | 81.8 | 83.0 | 78.8 |
| | 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた | 56.1 | 68.4 | 63.7 |
| | 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた | 80.3 | 79.5 | 74.4 |
| | 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた | 81.8 | 84.7 | 81.8 |
| その他 | 自分には、よいところがあると思う | 83.4 | 85.6 | 83.5 |
| | 将来の夢や目標をもっている | 86.4 | 82.7 | 81.5 |
| | 人の役に立つ人間になりたいと思う | 100 | 96.3 | 95.9 |
| | 今住んでいる地域の行事に参加している | 69.7 | 56.8 | 57.8 |

【質問紙分析】

- ・ 質問紙調査の結果では、県平均、全国平均を22項目中14項目上回っていた。
- ・ 「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」では、県平均、全国平均を大きく下回っていた。グローバルな視点で物事を捉えられるように、国際理解教育に力を入れていく必要がある。
- ・ 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」では、学校研究課題と絡めて表現力をつけさせていく。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- 文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約するかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、2つある条件のうち、一方の条件は書けているが、もう一方の条件を書けていなかったため、正答率が低い。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、2つある条件のうち、一方の条件は書けているが、もう一方の条件を書けていなかったため、正答率が低い。

【算数】

- 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 台形の意味や性質について理解しているかをみる問題の正答率が高い。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、目的の図形をつくるための見通しを立てる児童が少なかったため正答率が低い。
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、証明をするためのキーワードを使用していないため正答率が低い。
- (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題では、 $66 \div 3$ の十の位の商を立てるところで、 $60 \div 3$ を $6 \div 3$ と捉えていた児童が多かったため正答率が低い。

課題への取組・改善策

【国語】

・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」や「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題」では、相手や目的に応じて必要な情報を集め、書き表す活動を国語の授業だけでなく、他の教科と横断的に取り組む必要がある。

【算数・数学】

- ・正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、実際に操作をさせるなど、見通しを立てることができるようにする。
- ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、キーワードを入れて振り返りをしたり、説明したりするなど、授業の中で工夫が必要となる。
- ・ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題では、図や具体物など視覚支援を活用するなど、指導の改善を図る。

【その他】

- ・今回の結果から誤答を分析する。どのような間違いをし、どのような指導や取組が必要か改善策を考える。
- ・カリキュラムマネジメントを推進する。
- ・学校研究課題である表現力を高められるように積極的に研修に参加し、日々の授業に生かす。